

令和7年度土木工事標準積算基準等改定 概要

1土木工事・業務の積算基準等の改定

2積算基準書の構成

3各種留意事項

1土木工事・業務の積算基準等の改定

2積算基準書の構成

3各種留意事項

週休2日の「質の向上」の拡大

R7.5.15以降適用

- 完全週休2日(土日)の実現等を推進するため、完全週休2日(土日)の週休2日の補正係数を新設
- 月単位の週休2日についても、継続適用

<現場閉所>

補正係数	月単位の週休2日	完全週休2日(土日)
R7	労務費：1.02 共通仮設費：1.01 現場管理費：1.02	労務費：1.02 共通仮設費：1.02 現場管理費：1.03

現場環境の改善費用の充実

R7.5.15以降適用

- 従来、ミストファン等の設備対応を共通仮設費(現場環境改善費)、経口保水液・空調服等の労務管理にかかる費用を現場管理費(真夏日の日数に応じて補正)にて計上。
- 令和7年度より、「現場環境改善費」(率計上)から避暑(熱中症対策)・防寒対策費を切り離し、熱中症対策・防寒対策にかかる費用を「現場環境改善費」(率計上)の50%を上限に、設計変更を実施。

< 共通仮設費 (現場環境改善費) >

従来

率計上費目	実施する内容 (率計上分)
現場環境改善 (仮設備関係)	1. 用水・動力等の供給設備 2. 緑化・花壇 他
現場環境改善 (営繕関係)	1. 現場事務所の快適化 2. 労働宿舍の快適化 他
現場環境改善 (安全関係)	1. 盗難防止対策 2. イメージアップ経費 3. 避暑(熱中症対策)・防寒対策
地域連携	1. 見学会の開催 2. デザイン工事看板 他

改正

率計上費目	実施する内容 (率計上分)
現場環境改善 (仮設備関係)	1. 用水・動力等の供給設備 2. 緑化・花壇 他
現場環境改善 (営繕関係)	1. 現場事務所の快適化 2. 労働宿舍の快適化 他
現場環境改善 (安全関係)	1. 盗難防止対策 2. イメージアップ経費
地域連携	1. 見学会の開催 2. デザイン工事看板 他

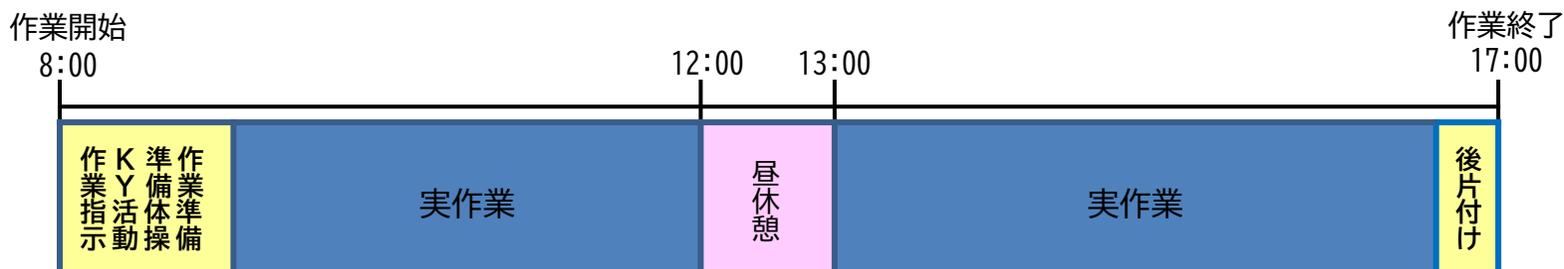
積み上げ計上費目 (精算時の設計変更対象)

主に現場の施設や設備に対する熱中症対策・防寒対策に関する費用については、対策の妥当性を確認の上、設計変更。
 なお、積み上げ計上の場合は、現場管理費に計上される作業員個人の費用と重複がないことを確認し、率分で計上される現場環境改善費の50%を上限。

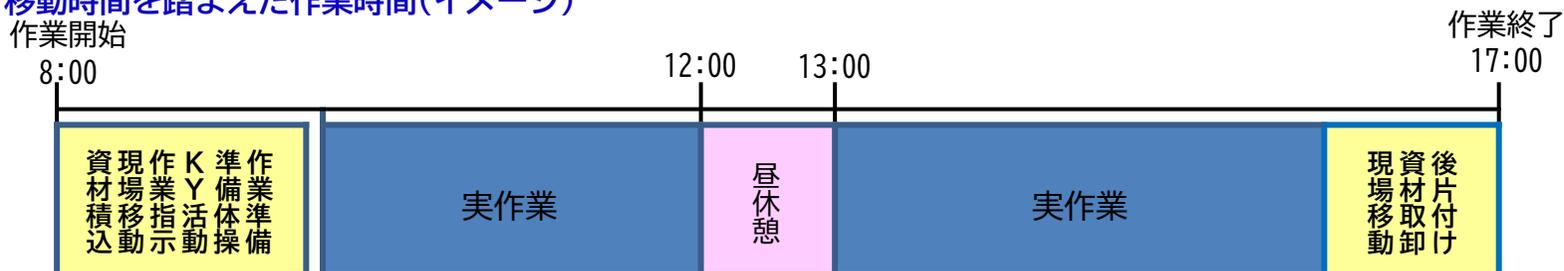
土木工事標準歩掛

- KY活動や準備体操、現場内の移動時間や後片付け等は一日の作業時間（就業時間）に含まれており、標準歩掛においても適切に反映されている路上工事などで常設の作業帯が現場に設けられない工事では、資材基地からの移動時間を適切に反映。
- 路上工事など常設の作業帯が現場に設けられない工事において、別途設けられた資材基地から現場への移動時間を適切に反映できるよう、令和4年度に調査表の全面見直しを実施。
- 令和6年度は、路上工事だけでなく仮設工事においても同様の傾向が見られたことから、これを適切に反映。

■ 従前の作業時間(イメージ)



■ 移動時間を踏まえた作業時間(イメージ)



- 切削オーバーレイ工など**10工種**で、現場移動等により作業時間が短くなり、日当たり施工量が減少している傾向が見られた。⇒R7年度歩掛改正に反映

切削オーバーレイ工、構造物補修工（断面修復工）、油圧圧入引抜工、床版補強工、塵芥処理工、排水構造物工（暗渠排水管）、路盤工、路盤工（ICT）、透水性アスファルト舗装工、沓座拡幅工

土木工事標準歩掛

土木工事標準歩掛は、土木請負工事費の積算に用いる標準的な施工条件における単位施工量当り、若しくは日当りの労務工数、材料数量、機械運転時間等の所要量について工種ごとにとりまとめたもので、「施工合理化調査等の実態調査」の結果を踏まえ、新規工種の制定及び既存制定工種を改定

(1)新規制定【3工種】

- ①排水材設置工(水平排水層)、②中層混合処理工(ICT)、③切削オーバーレイ工(ICT)



(2)使用機械、労務等の変動により改定を行う工種【6工種】

- ①スラリー攪拌工、②全回転オールケーシング工、③残存型砕工、④締切排水工、⑤雪寒仮囲い工、⑥大型土のう工



(3)移動時間を考慮した改定【4工種】

- ①構造物補修工(断面修復工)、②切削オーバーレイ工、③油圧圧入引抜工、④床版補強工



(4)建設機械の回送時間を考慮した改定【1工種】

- ①鋼橋架設工

施工パッケージ型積算基準

施工パッケージ型積算基準は、土木請負工事費の積算に用いる標準的な施工条件における機械経費、労務費、材料費を含む単位施工量当り「単価」を工種区分毎に設定したもので、「施工合理化調査等の実態調査」の結果を踏まえ、施工パッケージ型積算基準及び標準単価表を改定

(1)使用機械、労務等の変動により改定を行う工種 【4工種】

- ①発泡スチロールを用いた超軽量盛土工、
- ②護岸基礎ブロック据付工、③舗装版クラック補修工、
- ④消波根固めブロック工

(2)移動時間を考慮した工種 【6工種】

- ①排水構造物工(暗渠排水管)、 ②塵芥処理工、
- ③路盤工、④路盤工(ICT)、⑤透水性アスファルト舗装工、
- ⑥沓座拡幅工



発泡スチロールを用いた超軽量盛土工



護岸基礎ブロック据付工



路盤工(ICT)



排水構造物工(暗渠排水管)

「施工パッケージ型積算方式標準単価表（参考資料）」の公表

施工パッケージ型積算方式の理解向上に資するため、施工パッケージ標準単価の代表機材規格のうち、**代表機械規格及び代表労務規格の参考数量（積算単位当りの労務の人工数や機械の運転日数等）**を「施工パッケージ型積算方式標準単価表（参考資料）」として、**国土技術政策総合研究所HPに掲載**（令和7年3月末公表）。

(https://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/theme_sekop.htm)

鋼橋製作工

○鋼橋製作工の歩掛について、製作現場の実態を踏まえ改定

●製作費

鋼橋製作費 本体製作工

加工組立工数(標準工数(人/個))

種別		現行	改定
丸型鋼橋脚	a1大型	6.39	6.76
	a2小型	0.54	0.57

鋼橋製作費 本体製作工

仮組立て工数(標準工数(人/個))

種別		現行	改定
鋼床版鈹桁	c	3.61	4.17
アーチ	c	2.55	2.70

鋼橋製作費 付属物製作工数 伸縮継手(標準工数(人/t))

種別		現行	改定	
フィンガー形式(J-1)		d	11.2	15.3
車道部はフィンガー形式 歩道部重ね合わせ(踏板)形式(J-2)		d	12.2	14.9

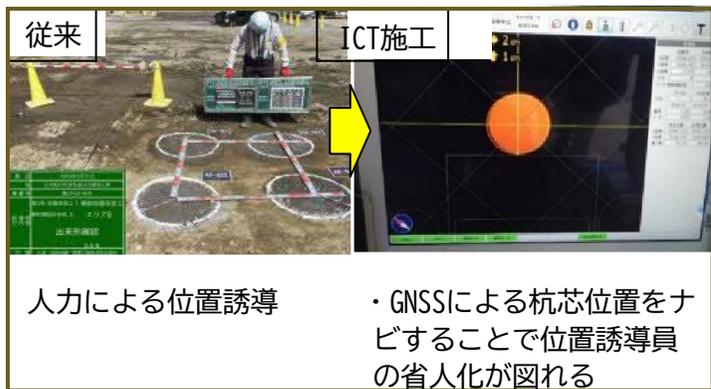
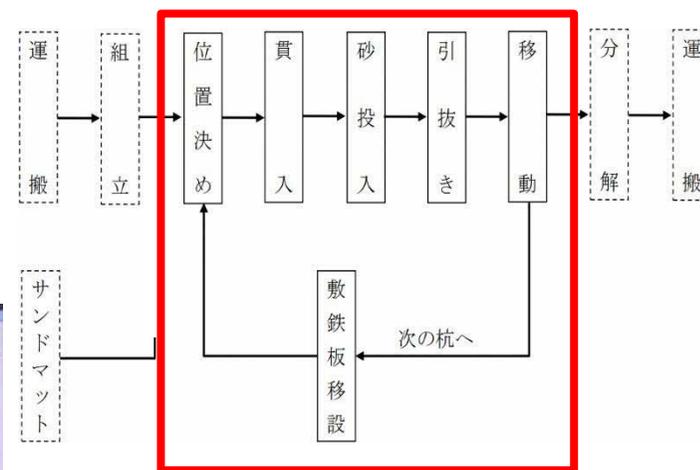
ICT活用工事 新規工種

軟弱地盤処理工(サンドコンパクションパイル工)(ICT)

【概要】

ICTを活用し、地盤改良が必要な箇所に 建設機械を設置する位置決め作業や施工後の杭径、間隔、杭深の確認作業の効率化を図る工法。
 また、取得データにより砂投入量も確認できるので、杭品質の向上も期待できる。

【施工フロー】



従来 人力による位置誘導

ICT施工
 ・GNSSによる杭芯位置をナビすることで位置誘導員の省人化が図れる

位置決め作業の効率化



計測データを用いた砂投入量の管理

【今回整備】

- ICT活用工事実施要領
- ICT活用工事積算要領
- 3次元計測技術を用いた出来形管理要領

ICT活用工事 積算改定

「ICT建設機械による施工」の積算における「保守点検」の廃止

- 作業前後において、ICT建設機械は通常建設機械とは異なり、通信機器や表示モニター等の点検や確認に要する作業が別途必要となることから、保守点検費用として以下の算定式に費用を計上。

【保守点検】

$$\text{保守点検} = \text{土木一般世話役 (円)} \times 0.05 \text{ (人/日)} \quad \times \quad \frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量(m3/日)}}$$

- 実態調査の結果、点検・確認作業にかかる時間に差異が見られなかったことから、

保守点検費用の別途計上を廃止。

<通常建設機械の点検作業>

作動油チェック、残燃料確認、油漏れ・水漏れ目視点検、履帯緩み確認、グリス給脂、バックカメラ点検などを実施

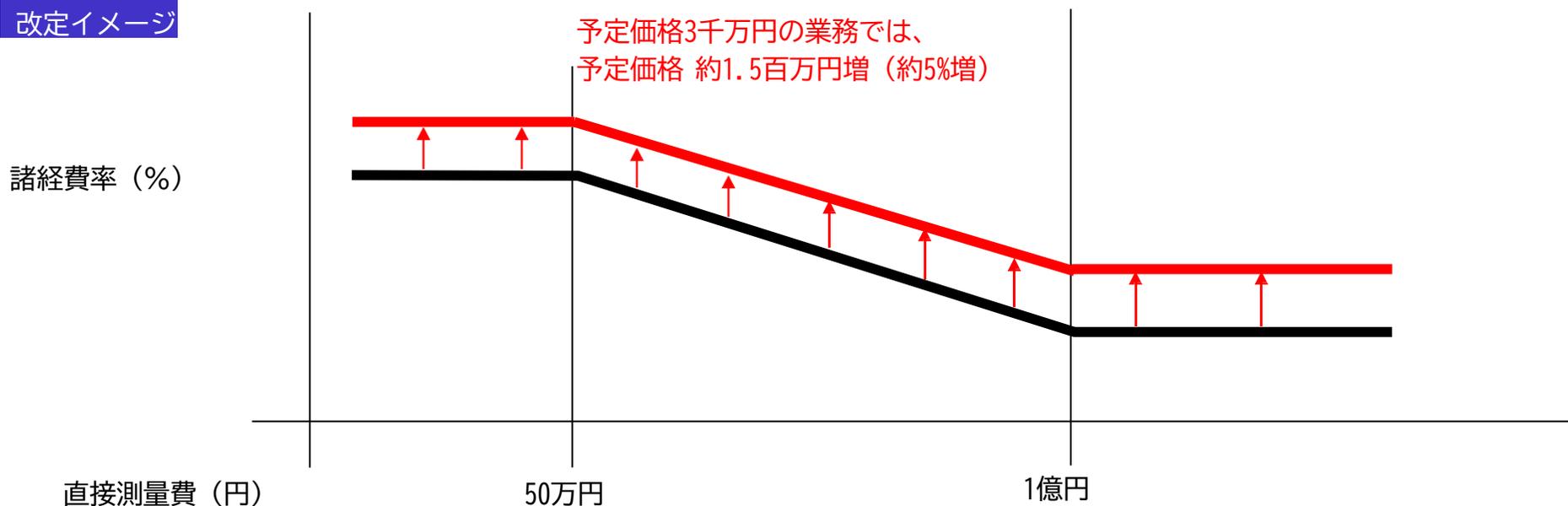


設計業務等標準積算基準関係

R7. 4. 10以降適用

○実態調査の結果を踏まえ、測量業務の諸経費率を改定

改定イメージ



【現行】

50万円以下	50万円超え1億円以下	1億円超え
91.2%	$371.23 \times (\text{直接測量費})^{-0.107}$	51.7%

【改定】



50万円以下	50万円超え1億円以下	1億円超え
95.8%	$288.50 \times (\text{直接測量費})^{-0.084}$	61.4%

設計業務等標準積算基準関係

■ 軟弱地盤技術解析業務

○実態調査の結果を踏まえ、軟弱地盤技術解析業務の歩掛を改定

工種（細別）			単位	直接人件費					技術員	
				主任技術者	技師長	主任技師	技師（A）	技師（B）		技師（C）
解析計画			人／業務	1.5 1.1		1.5 1.6	2.0 2.1	1.0 1.3	0.5 0.7	0.5 0.8
現地踏査			人／業務			2.0 1.9	1.5 1.8	1.5 1.6	1.0 0.8	1.0 1.0
現況地盤解析	地盤破壊	円弧すべり	人／断面			1.0 1.4	1.5 2.1	2.0 2.7	2.5 3.4	2.0 2.7
	地盤変形	簡便法	人／断面			1.0 1.4	1.5 2.1	1.0 1.3	0.5 0.7	2.0 2.7
	地盤圧密	一次元解析	人／断面			1.0 1.4	1.5 2.1	2.0 2.7	1.5 2.1	2.0 2.6
	地盤液状化	簡便法	人／断面			1.0 1.4	2.0 2.7	1.5 2.1	1.0 1.4	2.5 3.3
検討対策工法の選定			人／業務		1.0 0.9	2.0 1.9	2.0 2.5	2.0 2.1	1.0 0.7	1.5 1.6
対策後地盤解析	地盤破壊	円弧すべり	人／断面			1.5 1.9	1.5 1.9	2.0 2.5	2.5 3.0	2.5 3.0
	地盤変形	簡便法	人／断面			1.5 1.9	1.5 1.9	1.5 1.8	1.0 1.3	2.5 3.0
	地盤圧密	一次元解析	人／断面			1.5 1.9	1.5 1.9	1.5 1.8	2.0 2.5	1.5 1.8
	地盤液状化	簡便法	人／断面			1.5 1.9	2.5 3.1	1.5 1.9	1.5 1.8	2.5 3.0
最適工法の決定			人／業務		1.0 0.8	2.0 1.8	1.5 1.8	1.0 1.3	1.0 1.2	1.0 0.9
照査			人／業務		1.5 1.3	1.5 1.7	1.0 1.4	1.0 0.7		

上段が現行歩掛 下段が改定

設計業務等標準積算基準関係

■ 橋梁予備設計

○実態調査の結果を踏まえ、橋梁予備設計の歩掛を改定

区分 \ 職種	直接人件費 (1橋当り)						
	主任技術者	技師長	主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
設計計画	2.0	2.1	4.4	6.2	4.9		
	2.3	2.4	4.8	7.2	4.6		
設計計算			3.4	4.6	7.6	6.4	
			3.6	4.8	7.2	6.9	
設計図					4.8	5.2	6.1
					5.0	5.7	6.5
概算工事費算出				1.7	4.7	5.8	5.3
				1.9	4.5	6.5	5.1
照査		1.9	2.8	4.2			
		2.0	2.8	4.4			
報告書作成				1.5	2.2	1.6	1.3
				1.6	2.4	2.0	1.4

区分 \ 職種	直接人件費 (1業務当り)						
	主任技術者	技師長	主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
現地踏査			1.3	1.6	1.8	0.9	
			1.6	1.6	1.6	0.8	

上段が現行歩掛、下段が改定歩掛

設計業務等標準積算基準関係

■ 橋梁詳細設計

○実態調査の結果を踏まえ、橋梁詳細設計の歩掛を改定

区分 \ 職種	直接人件費 (1橋当り)						
	主任技術者	技師長	主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
座標計算				0.8	1.7	2.0	
				0.9	1.9	2.3	
施工計画				3.0	4.1	4.5	
				3.4	5.3	6.5	
動的照査			3.2	7.2	9.1	9.6	
			4.0	8.3	11.7	11.5	

上段が現行歩掛、下段が改定歩掛

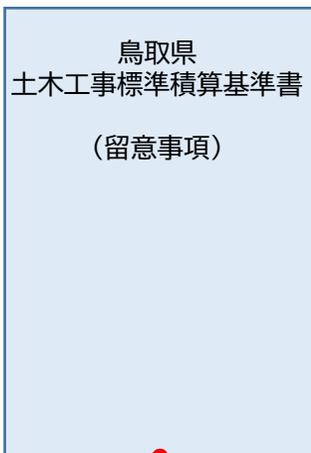
1土木工事・業務の積算基準等の改定

2積算基準書の構成

3各種留意事項

鳥取県土木工事標準積算基準

【電子版(PDF)
提供】

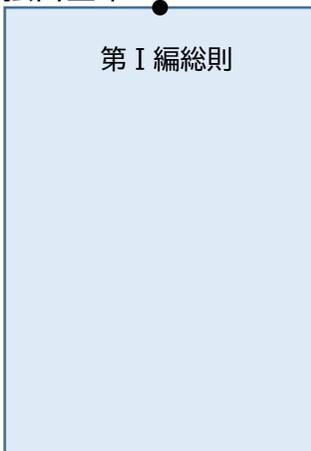


- ・鳥取県の積算基準として、鳥取県独自部分と国等標準基準(国著作物を分離)を分離。
- ・鳥取県独自基準は、電子版(PDF)として、提供を継続。
- ・標準基準については、提供不可(国著作物のため)。必要に応じて、市販本を利用してください。
【取扱い注意】 電子版(PDF)は今年度も提供。

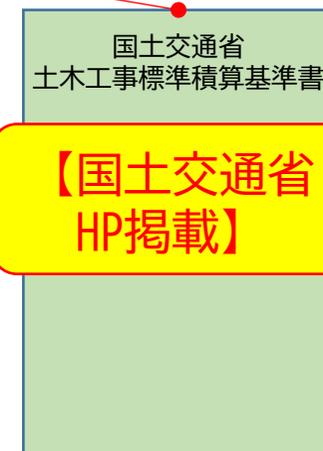
※令和3年度から紙書籍版は廃止。

独自基準

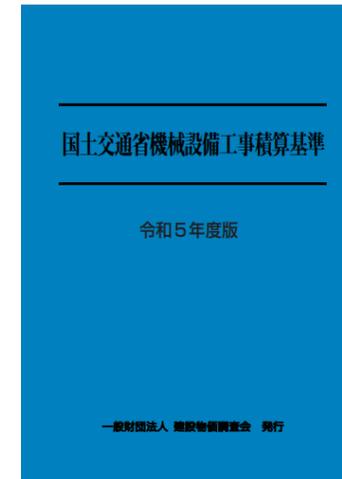
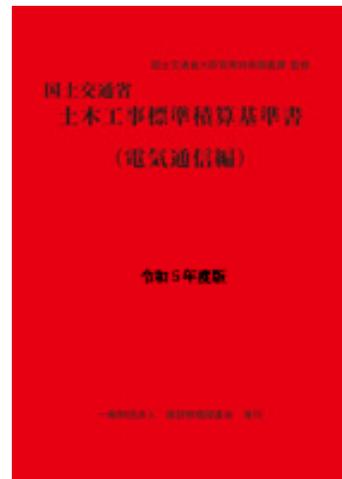
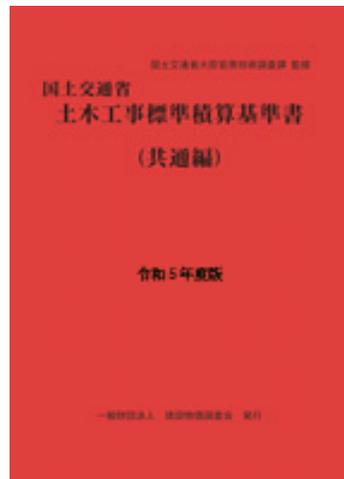
【電子版(PDF)
提供】



標準基準



国土交通省土木工事標準積算基準：（出版）建設物価調査会



建設機械等損料表：（出版）日本建設機械施工協会



設計業務等標準積算基準書：（出版）経済調査会



1土木工事・業務の積算基準等の改定

2積算基準書の構成

3各種留意事項

項目	概要	適用日
週休2日工事実施要領	<ul style="list-style-type: none"> ・「完全週休2日(土日)」, 「月単位の週休2日」の達成状況により週休2日の補正係数を乗じることとした。 	R7.5.15
オンライン電子納品試行要領の策定	電子納品を行う建設工事及び測量等業務のうち受注者が希望する工事及び業務で適用	R6.6.12
ICT活用工事実施要領の一部改定	調達公告日時点で最新の国土交通省が定める「ICTの全面的な活用の推進に関する実施方針」及び同方針別紙、各出来形管理の監督・検査要領、出来形管理要領及び各種要領に基づき実施することとした。	R5.10.10
土質ボーリングにおける適用区分	<ol style="list-style-type: none"> 1 オールコアボーリングと標準貫入試験を同時に行う場合 全掘進長をオールコアとする。 2 地すべり調査の場合 全掘進長をオールコアとする。標準貫入試験等が必要な場合は別孔とする。 3 1及び2以外の場合 調査内容に応じて適用区分を決定する。 	R5.10.10